

高校の役割

県高等学校長協会会長

(県立岡山大安寺中等教育学校校長)

影 山 勝 己



平成二十七年六月に公職選挙法が一部改正され、選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられたことにより、高等学校等に在籍する一部の生徒に選挙権とともに選挙運動を行うことが認められた。

社会での問題に関心を持ち解決に積極的に関わろうとする態度を育てるため、これまでも主権者教育には力を注いできたが、今回の法改正により更なる充実が求められるようになった。昨年七月の参議院議員選挙はその初めての国政選挙で、取り組んできた主権者教育の成果とあわせて大変注目された。

学校では、望ましい人間関係をつくり、よりよい学校や社会を築こうとする態度等を育てるため、学校行事などの特別活動や部活動などにも力を入れている。

なかでも体育祭や文化祭などの学校祭は花形で、生徒会や実行委員会が中心となり議論を重ね準備して本番を迎える。上級生がリードしてブロックをまとめたり、クラスや部活動を中心に展示や発表を行ったりして学校祭を盛り上げている。

また、昨年夏は「二〇一六 情熱疾走 中国総体」(インターハイ)が岡山県を主会場に開催され、全国から多くのアスリートを迎えた。出場する選手はもとより、猛暑の中、運営等

に関わる高校生の意欲的な参加により大会も無事終了した。

一方、ボランティア活動や就業体験など社会とかかわる体験も重要で、地域と連携した教育活動も盛んである。特に専門高校では専門的な知識・技能等に加えて社会的責任を担う職業人の育成を目指した実践的な教育に努めている。

異年齢や初めて会う人たちと共同して取り組むことが多いこれらの活動は、一人一人の成長の場となっている。

グローバル化・情報化など変化の激しい社会状況を背景に、現在、高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革、高大接続改革が推進されており、新テストやアクティブ・ラーニングなどに注目が集まりその対応をせまられているが、高等学校がこれまで地道に取り組んできた教育活動についても、学校の活性化や特色づくりを進めるうえで今後も大切にしていきたい。

先行き不透明なこれからの時代を生きていく高校生たちに、いわゆる「生きる力」を十人身に付けさせ、力強く歩み、社会を支える人材として成長させていくことが高等学校に課せられた大切な役割の一つである。